

## 投稿

## 映画「みちのく秋田・赤い靴の女の子」

## 裏方話 (うらかたばなし)

2018年6月、秋田県出身者で構成されているとある会の会合で映画の企画話を聞いた。会合後の飲み会、たまたま企画者の大山雅義氏(秋田中央高校卒)と真向かいの席に座った。これも何かの縁だろうと名刺を交換し、改めて企画の内容をあれこれと聞いた。面白そうだと思った。私は東京秋工会の役員を長くやっている関係で同郷のいろんな会に駆り出されることが多く、同郷関係に多少顔が広い。また私はフリーランスのデザイン屋を長くやっている。そんなバックボーンを見込まれたのだと思うが、後日大山氏から連絡があり、映画の実現に協力することになった。

最初に頼まれたのは制作委員会の立ち上げだった。委員会スタッフ候補として真っ先に思い浮かんだのは、詩人として活動している曾我貞誠氏(秋田高校卒)だった。曾我氏とは「首都圏在住秋田人・一〇〇人の物語」(2017年発行)という本の制作の時に知り合った。同郷の気安さということもあるが、何よりも企画実現のための行動力に長けている人だと本の制作と販売活動の時の様子で思えたからである。実際、曾我氏の存在がなかったら、この映画を上映に漕ぎ着けさせることは出来なかつただろうと思う。

同じ頃大山氏から、秋田出身の脚本家を知らないかと相談された。一人心当たりはあった。秋田関連の会で知り合いになった脚本家の石谷洋子氏(横手城南高校卒)。少し気になることもあったが、素人の自分が余計なことを言うより大山氏の感触で判断してもらうのがいいだろうと紹介した。石谷氏はその後の流れで監督をすることにもなった。曾我氏の他、幾人かに声をかけ委員会らしき形はできたが、時間調整の難しさ他の諸事情もあり、委員会活動は大山氏と曾我氏、それに私の3人が主体となって行なった。

制作資金は企画主で統括プロデューサーである大山氏があらかじめ用意していたそれなりのものがあつたが、遠からず足りなくなるであろうことは分かっていた。私と曾我氏は映画の製作そのものには関わらないスタンスを取り、周辺のサポート、特に広報と資金集めのための活動に目を向けることに注力した。

2019年5月、映画がクランクイン。秋田でのロケが春、夏、秋、冬の順に行なわれることになっていた。広報に使うためのスチール写真は当初、大山氏が何とかするということがあったが、どうやら無理。曾我氏がロケに同行して撮ってくれることになった。失礼ながら当初は使える写真を選ぶのが大変だったが、回を追うごとに使える写真が増えていった。

夏のロケが終わった辺りから大山氏の「金が足りない」という言葉を耳にすることが多くなった。それでもなんとか秋までの撮影を終えた。大山氏が頑張ってくれたようだった。2020年1月、新型コロナウイルスが騒がれ始めたが、大ごとになる前の2月、冬のシーンを撮り終え、秋田でのロケを完了させた。残すは夏に予定のハワイシーン…となつたが、コロナ禍のため日本中が活動停止状態になり、撮影の予定が立てられなくなった。不謹慎かもしれないが、実のところ助かったと思った。あのまま無理をして一気に撮影を終えられたとしても、上映へと繋げる動きがスムーズにできたか疑問だ。世間が認めるストップ仕方の状況で一息つけたからこそ完成にたどり着けた、そんな気がする。

コロナ禍における活動対応が世間全般に行き渡った2021年9

月、関東近郊のロケ地を巡っての撮影を敢行。企画者の大山氏としては実際のハワイの風景を織り込みたかつたようだったが、叶うことなく全撮影が終了した。そして映像編集などの最終作業を経て、2022年10月、映画「みちのく秋田・赤い靴の女の子」は一応の完成となり、同24日に物語のお膝元である秋田市、翌25日に横手市、11月22日・12月1日には東京都文京区で先行上映会と銘打った形でのお披露目がされた。



2022年11月22日 文京シビックセンターでの先行上映会にてミス・ハリソン役で出演のアナンダ・ジェイコブズさんとそのご家族を囲んで上映会スタッフ全員での記念ショット  
右側Vサインの女性は、テーマソングの歌手Yummiさん

企画当初から丸4年付き合い、一応の完成にたどり着きお披露目できたことはもちろん嬉しい。だが喜び半分というところで達成感はない。建前的な物言いではあるが、この映画の制作目的は、みちのく秋田に実在した童謡「赤い靴」のような物語を広く多くの人に知ってもらいたい、ということにあって、全国上映の準備が整っていない現在においてはただ喜んではいられないというのが先に立つ。2022年の10月からの4回の上映会でこの映画はそれなりに評価された。ただそれは秋田関連の人が観客のほとんどだったからとも言えるわけで、本当の評価は全国に踏み出して行かなければ分からないことだ。

映画「みちのく秋田・赤い靴の女の子」はこれから全国に踏み出していく。自主制作映画の上映にはなかなか厳しいものがあるが、さまざまな手を打つことが可能なことは分かっている。考えるとしんどさを思わずにはいられないが、一歩一歩いくしかあるまい。

私の映画「みちのく秋田・赤い靴の女の子」での裏方役はまだしばらく続く。

みちのく秋田・赤い靴の女の子制作委員会/副委員長  
船木 一美 (昭和48年機械科卒)

\*\*\*\*\*

株式会社 汎建築設計事務所

代表取締役 鈴木 誠一 (昭和38年建築科卒)  
一級建築士  
コスト管理士

秋田市保戸野すわ町14-23  
TEL 018-862-3449  
FAX 018-862-3289  
E-mail: han\_0416@cna.ne.jp  
URL: http://www.cna.ne.jp/Than\_0416/